

# ハイヒールの是非を問う



## 日本(自己)の評価

- ◆ 腰痛大国
  - 腰痛有訴率世界一
  - 姿勢のゆがみ、外反母趾、魚の目、ねんざ、腰痛、重症になると椎間板ヘルニアや不妊の一因となる
  - 手術をするケースも
- ◆ 利点の根拠はファッション性のみ
  - 歴史的に浅い文化
  - 背を高く見せ、スタイルがよく見える(姿勢が悪くなり、一概にそうは言えないという意見も多い)
  - 女性らしさを際立たせる

健康被害によるQOLの低下、  
医療費増大  
→禁止するべき

## 西洋(他者)の評価

- ◆ 数多くの反対派
  - 女性が「性を売る」
  - 男性による社会的差別
  - 身体への悪影響
- ◆ 根強い容認派
  - Self-image  
思春期の通過儀礼／靴と心のinteraction
  - Body Elongation  
身長↑ → 社会的能力↑
  - Sex Appeal  
異性にアピール、同性を牽制
  - Social Status  
自己表現手法／靴は評価基準

文化的存在価値大  
→禁止にはエビデンスが必要

# 結論



ハイヒール着用による腰痛などの健康被害は著しく、医療費削減、QOL向上などの観点からその着用を禁止すべきだと考える。

しかし西洋での文化的価値は無視できないものである。そこで、歴史が浅く、文化的に深く容認されているとは言えない日本で実験的に禁止し、その効果を検証することで、世界的に新たな価値観を示したい。

特に日本は高低差の大きい地形的特徴を持っており、ハイヒールで歩く女性が多い都市圏（神戸、東京、横浜）で特に坂が多い点、効果が如実に現れることが期待される。

# 日本におけるハイヒール



## 日本の靴の歴史は浅い

- 明治時代初頭一靴伝来
- 家への出入りの度に履物を脱ぎ履きする煩わしさから、日常の履物には主に下駄と草履。現在でも玄関で靴を脱ぐ風習は残る。
- 1950年代中頃から男性を中心に革靴を履くことが一般化。



五月信子 (1894-1959)



# 日本での評価

## 利点

- 背を高く見せ、スタイルがよく見える(姿勢が悪くなり、一概にそうは言えない)
- 女性らしさを際立たせる
- ファッションを際立たせる



昨今のファッション的な  
価値観のみに基づく

ファッション性だけのために著しい健康被害  
を許容する例は現代日本において珍しい

## 欠点

- アキレス腱を常に緊張させる
- 姿勢のゆがみ、外反母趾、魚の目、ねんざ、腰痛、重症になると椎間板ヘルニアを引き起こす
- 手術をするケースも

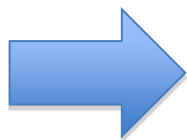


健康被害  
→QOL低下、医療費増大



「Journal of Joint Surgery 関節外科 Vol.14 No.9 Sep.1995.より引用」

- 日本は腰痛の有訴率世界一
- 腰痛のQOLに対するインパクト研究の増加 (RMD)
- 日本は高低差の大きい地形的特徴を持っており、神戸、東京、横浜などの都市部で特に坂が多い



禁止すべきではないか？

# 西洋に根付くハイヒール

## ❖ 多くの批判

- 女性が「性を売る」
- 男性による社会的差別
- 身体への悪影響



何故無くならない？



# 西洋における主観的意義

## ① Self-Image

- 思春期の通過儀礼
- 靴と心のinteraction

## ② Body Elongation

- 身長↑
- 社会的能力↑





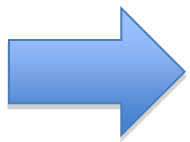
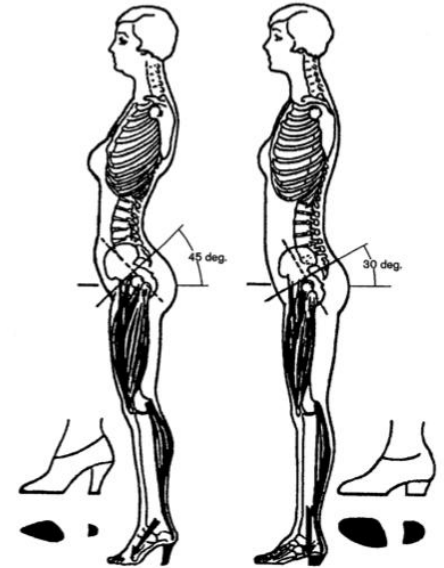
# 西洋文化での客観的評価

## ① Sex Appeal

- 異性へのアピール
- 同性を牽制

## ② Social Status

- 自己表現の一つ
- 靴＝評価基準



ハイヒールを  
文化として容認

## 日本(自己)の評価

- 歴史が浅い
- ファッションのひとつ
- 腰痛有訴率世界一



禁止するべき

## 西洋(他者)の評価

- 歴史が深い
- 靴とパーソナリティを結びつける価値観
- 思春期の通過儀礼
- 利点、欠点に関しても歴史的に様々な研究、思想あり



文化的な存在価値が大きく、簡単に禁止できない